

(事後評価)

女性研究者研究活動支援事業

(実施期間：平成 24～26 年度)

実施機関：高知大学（総括責任者：脇口 宏）

プロジェクトの概要

(1) 支援室の体制と具体的な活動内容

「女性研究者支援センター」を設置し、女性研究者の活動支援の中核的機関とする。また、センター内に、女性のための研究キャリアに関する「相談室」を設置し、女性研究者、および研究者をめざす院生・学生の相談機関とする。センターの活動内容は、以下の取組とする。

- ① 男女共同参画の意識啓発
- ② 女性研究職キャリア支援（学部生・院生含む）
- ③ ライフイベント期間中の研究活動支援
- ④ 育児・介護等と仕事の両立支援
- ⑤ ワーク・ライフ・バランスの改革推進

(2) 研究を支援する者の配置計画

ライフイベント期間中の女性研究者のための研究支援員（院生 10 名）を配置し、支援と次世代育成のしくみとして機能させる。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果 (システム改革)	実施体制	実施期間終了 後の取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	b

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

学内の安全・安心づくりに取り組む安全・安心機構の中に男女共同参画部門を設置し、男女共同参画推進室を中心に、女性研究者を取り巻く研究環境整備、男女共同参画に係る意識啓発、次世代育成等に意欲的に取り組んだことは評価できる。女性研究者の採用比率に関する所期の数値目標は概ね達成したが、実施期間中の教育組織改革に基づく人事凍結により、女性教員の採用が理学、農学分野で進まなかったことは今後の課題である。全学的に女性研究者の採用を進め、特に理学、農学系分野の女性研究者を増加させることを期待する。

・**目標達成度**：数値目標のうち女性研究者の採用比率、在籍比率、在籍数について所期の目標を概ね達成したことは評価できる。しかしながら、機関が実施した教育組織改革の影響により、理学、農学系分野の女性研究者の採用を進めることができなかったことを考えると、目標を十分に達成したとは言い難い。今後は、特に女性研究者の少ない理学、農学系分野において、女性研究者の採用を推進することが必要である。

- ・ **取組**：アンケート調査結果や管理職ヒアリングを上手く活用し、研究環境整備、意識改革、次世代育成に係る具体的な取組を効果的に行った。高知県や高知市と連携した取組、ワンストップ相談窓口の設置、力仕事サポーター制度の創設等、特色ある取組を行ったことは評価できる。
- ・ **取組の成果(システム改革)**：女性教員の採用促進に取り組むとともに、女性副学長を誕生させ、女性の教育研究評議会委員を1名から4名に大幅に増加させるなど、大学のマネジメントに関わる女性を増加させたことは評価できる。さらに、本事業の取組の推進を担った男女共同参画推進室の特任教員2名を任期なしのテニユア准教授に昇任させたことは評価できる。
- ・ **実施体制**：学長のリーダーシップの下に制定した「高知大学における男女共同参画の基本理念・方針」に基づき、男女共同参画推進委員会、男女共同参画推進専門委員会、男女共同参画推進室が一体となって、女性研究者支援、養成に取り組んだことは評価できる。
- ・ **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：本事業の取組の推進を担った特任教員を任期なしのテニユア准教授に昇任させたことから、研究環境整備、意識改革、次世代育成に係る様々な取組の継続が期待できる。しかしながら、理学系、農学系分野の女性研究者の採用促進に係る取組は未だ実施予定段階にとどまっている。機関として本事業の成果の継続・発展に意欲を示していることから、これまでの取組をさらに発展させていく必要がある。